



幼小の円滑な接続を目指して

部 長 勝木 茂

朝夕の冷え込みが増し、日没時刻が日毎に早くなりました。季節は秋から冬に移ろうとしています。先日の朝礼でも話しましたが、今年は例年に比べインフルエンザの流行が早まっているようです。手洗い、うがいをしっかりと習慣づけて予防に取り組みたいところです。

さて、11月9日(土)・10日(日)「令和を彩れ! 私たちの笑顔で」をテーマに、第25回「みどり祭」を幼稚部・初等部合同で開催いたしました。今年も保護者、卒業生をはじめとする多くの方にご来校いただき誠にありがとうございました。

わたしも幼稚部・初等部(3歳から12歳まで)それぞれの子供たちの発表や展示を見てまわりました。年齢の違いこそあれどれも良かったです。例えば、開会式では、幼稚部の年長さんが松本講堂のステージ上からたくさんの方の前にもかかわらず、しっかりと話していました。その子も立派でしたが、わたしは、その子に寄り添って、目で励ましているように感じた初等部6年生の司会者三人も素晴らしいなと思いました。

改訂された学習指導要領は、幼児期から高等学校までの教育において、育てるべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し一貫性をもたせています。つまりどの年齢期にあっても、それぞれの発達段階に応じて、三つの柱で整理した資質・能力を育てていくことが重要であるということです。ですから、これまで以上に幼小、小中、中高といった学校段階の円滑な接続が不可欠になってきます。

幼稚園教育要領には、三つの柱を踏まえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が新たに示されています。その中の「(10)豊かな感性と表現」には次のように記述されています。

以下、下線部幼稚園教育要領より引用

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方など

に気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

もちろん、このような姿は、小学校入学前にすべての子において到達すべき目標ではなく、そのような姿をイメージしながら指導を重ねていくという方向性を示したものと考えてよいと思います。ですから、小学校入学後においても、1・2年生の生活科の授業をはじめ、全ての授業、学校生活全般において、子どもたちが日常的に様々な感性を働かせて、自信をもって表現することができるよう授業を工夫し、充実させていく必要があります。今年の「みどり祭」に向けての学習場面においても、これらを意識した指導が行われていたものと思っています。例えば、幼稚部年長さんと初等部5年生が協同で取り組んだ作品も、それらの学習場面の一つだと思います。



「みどり祭」に向けての学習場面のみならず、初等部においては、特に入学直後のいわゆる「スタートカリキュラム」の充実を力を入れています。これは、初等部での学習や生活を通して少しずつ自信を深め、様々なことに意欲的に取り組める初等部生の育成を目指すもので、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も意識して作成されているものです。

初等部では、これからも幼小、小中の円滑な接続を目指して教育課程の改善や授業改善に日常的に取り組んでいきたいと考えています。